

Confidential

MSOLアジャイル営業資料

Ver.2.03 (2022/4/28)

株式会社マネジメントソリューションズ Digital事業部

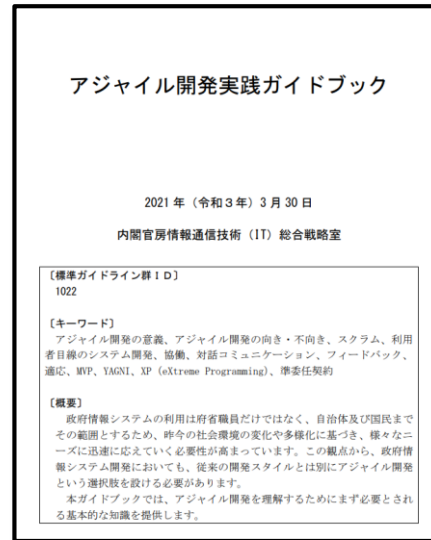
政府系のアジャイル動向

経済産業省が
アジャイル・ガバナンスを提唱



DXを超えて、様々な「ITだけでは無い
広義の意味での」システム、マーケット、
インフラにアジャイル型アプローチで取り
組むことを提唱

内閣官房情報通信技術（IT）
総合戦略室が
「アジャイル開発実践ガイドブック」を公開



政府系向けという組織文化に即した
ガイドブックとなっている。

「DXレポート ～ITシステム「2025年の
崖」克服とDXの本格的な展開～」に
おいても、アジャイルについて多く言及

DXの推進に向けた対応策について	
「2025年の崖」、「DX実現シナリオ」をユーザ企業・ベンダー企業等産業界全体で共有し、政府における環境整備を含め、諸課題に対応しつつ、DXシナリオを実現。	
DXを実行する上での現状と課題	対応策
既存システムのブラックボックス状態を解消できない場合 ① データを活用し難く、DXを実現できず ② 今後、維持管理費が高騰し、技術的負債が増大 ③ 保守運用者の不足等で、セキュリティリスク等が高まる DXを本格的に展開するため、DXの基盤となる、変化に迅速で柔軟なITシステムとすべく、既存システムの刷新が必要 しかしながら A) 既存システムの問題点を把握し、いかに克服していくか、経営戦略が踏き切れていない B) 既存システム刷新に際し、各関係者が果たすべき役割を認識していない ・経営トップ層の強いコミットがない（＝経営戦略を踏き切っていない） ・情報システム部門がベンダーの提案を盲信しがち ・事業部門はオープンソースをとりず、できるものに不満を言う C) 既存システムの刷新は、長期間にわたり、大きなコストがかかる、経営者に とってはリスクもあり D) ユーザ企業とベンダー企業間の新たな関係の構築が必要 ・ベンダー企業に依存しすぎ、責任はベンダー企業に負かすことが多い ・要件定義が不明確で、契約上のトラブルにもなりやすい ・DXの取組を経て、ユーザ企業、ベンダー企業のあるべき姿が変化 ・アジャイル開発等、これまでの契約モデルで対応しきれないものあり E) DX人材の不足 ・ユーザ企業でITで何ができるかを理解できる人材が不足 ・ベンダー企業でも、既存システムの維持・保守に人員・資金が割かれ、クラウド上のアプリ開発等の競争領域にシフトしきれない	1 「見える化」指標、中立的な評価システムの構築 経営者自ら「ITシステムの現状と問題点を把握し、適切なガバナンスを定める」。 ・「見える化」指標の策定 → 技術的負債の定量化、データ活用しやすい等の情報資産の現状 → 既存システム刷新のための体制や実行プロセスの現状 ・中立的で信頼性の高い評価システムの構築 2 「DX推進システムガイドライン」の策定 ・既存システムの刷新や新たなデジタル技術の活用に関する「体制のあり方」、「実行プロセス」等を提示 ・経営者、取締役会、株主等のチャーターリストとして活用 → コーポレートガバナンスのガイドラインや「取組のIT経営路線」にも連動 3 DX実現に向けたITシステム構築におけるコスト・リスク低減のための対応策 ・刷新後のシステムが実現すべきゴールイメージ（変化に迅速に追従できるシステム）の共有（ガイドラインで共有） ・不要なシステムは廃棄し、刷新に特化（ガイドラインで共有） ・刷新におけるマイクロサービス等の活用を促進（細分化により大規模・長期にわたるリスクを低減） ・協調領域における共通プラットフォームの構築（節約効果）（実証） ・クラウド・インフラストラクチャ（2020年度まで） 4 ユーザ企業・ベンダー企業間の新たな関係構築 ・システム構築やアジャイル開発に適した契約ガイドラインの見直し ・技術研究組合の活用（アジャイル開発の活用） ・システム刷新にシフト後の対応と人材の活用を促進 5 DX人材の育成、確保 ・既存システムの維持・保守業務から解放し、DX分野に人材シフト ・アジャイル開発の実現による事業部門人材のIT人材化 ・スキル標準、認定制度による人材育成

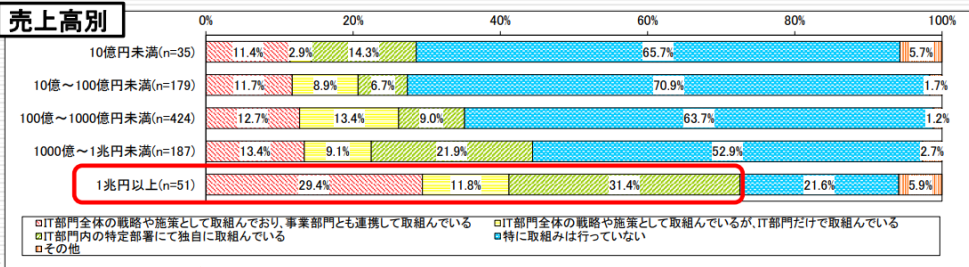
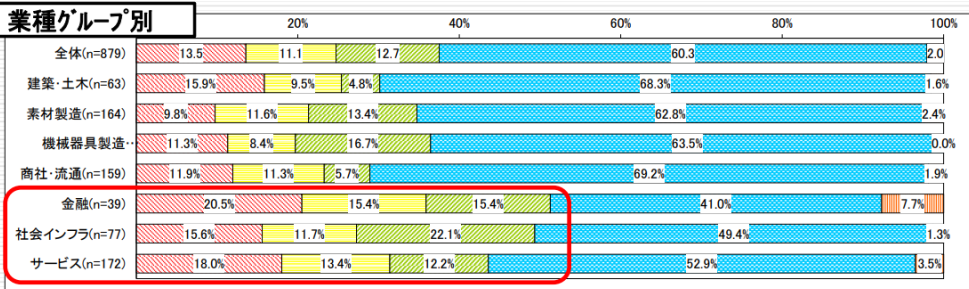
DXの推進のベースにはアジャイル導入・
実行が不可欠

JUAS（日本情報システム・ユーザ協会）の企業IT動向調査報告書2020から抜粋

DXに取り組んでいるところほど
アジャイルに取り組んでいる

＜アジャイル開発の取組み状況＞

アジャイル開発は金融・社会インフラ・サービスで特に取組みが進む
売上高1兆円以上では8割が取組み、3割は事業部門とも連携



JUAS

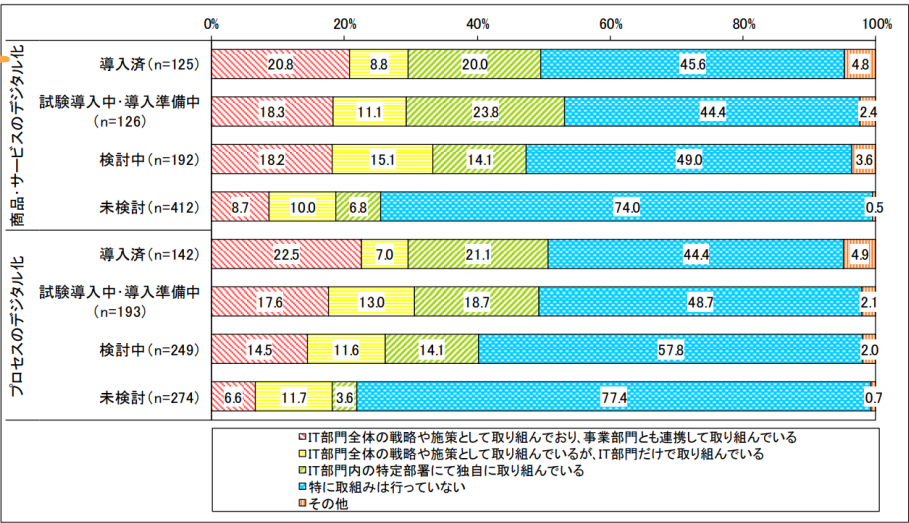
(C) JUAS 2020

46

大手では8割がアジャイル
に取り組みに積極的

DXに必要な人材が不足し確保
が困難な状況が続いている

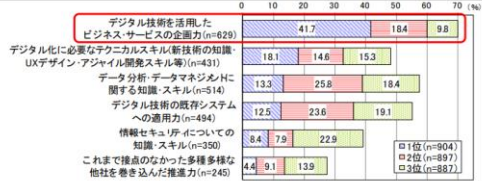
図表 9-4-3 デジタル化への取組み状況別 アジャイル開発の取組み状況



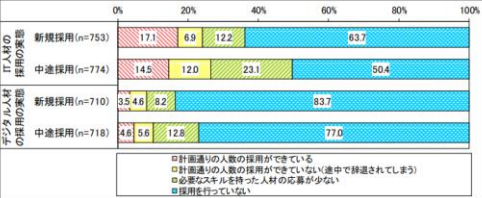
＜デジタル人材に必要なスキルと採用の実態＞

各企業、デジタルをどうビジネスに結びつけるかという点のスキルを重要視
デジタル人材の採用は、IT人材以上に進んでいない状況

デジタル化を推進する上で必要な知識・スキル



IT・デジタル人材の採用の実態



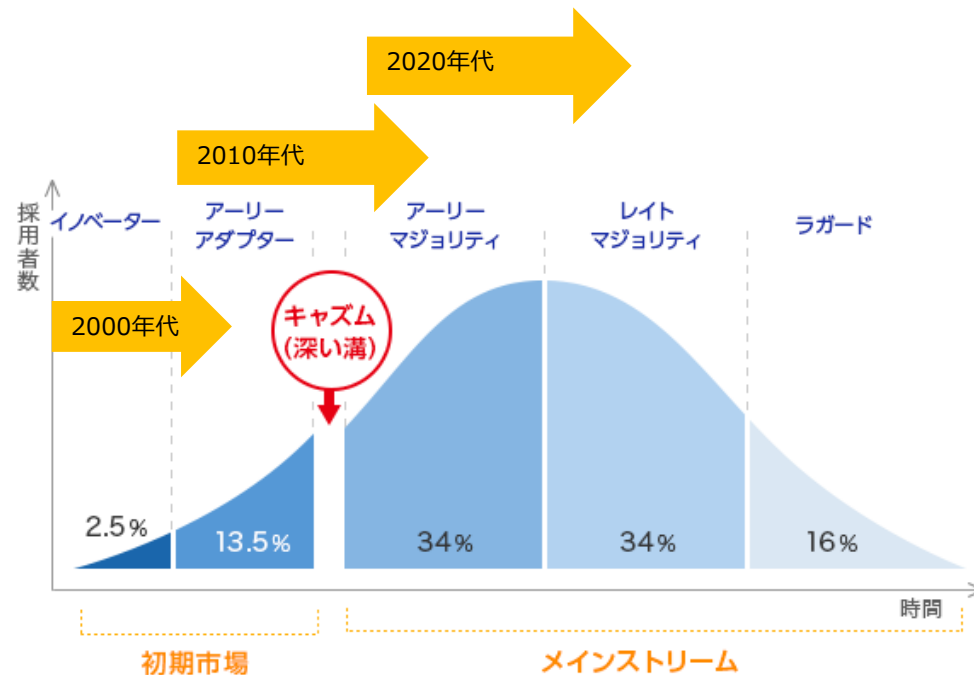
JUAS

(C) JUAS 2020

40

IPAやPMIの活動を通じた肌感

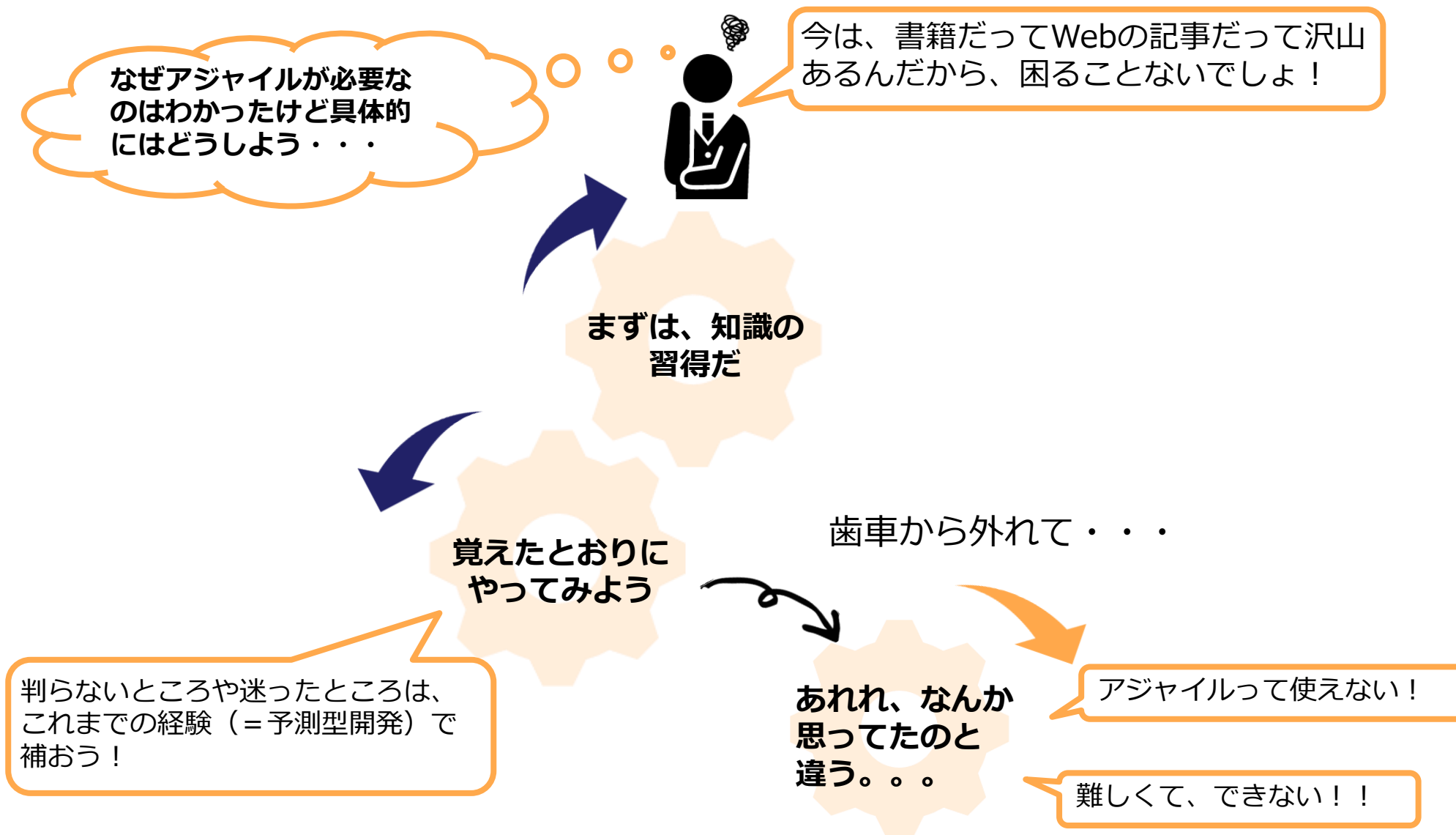
- 2010年代前半はまだ、アーリーアダプタが中心
 - 一部の初期採用層がいろいろ試していた時代
 - 経営層より現場が採用したい要望が強かったボトムアップ時代
- 2010年代後半になって、一部アーリーマジョリティが採用し始めてきた
 - 現場よりも経営層の一部がアジャイル導入に積極的になり始めたトップダウンが増えてきた時代
- 2020年代
 - アジャイルがDXを推進のコアになるなどアーリーマジョリティだけではなく、レイトマジョリティの一部も取り組み始めなければならないと危機感を抱き始めている時代



イノベーター理論とは、1962年にスタンフォード大学の社会学者であるエベレット・M・ロジャースによって提唱された、新しい商品やサービスの市場浸透に関する理論のこと。新しい商品やサービスへの反応について、早い順に5つに分類している。

アジャイルにも取り組んだ方が有利かもしれない ⇒ アジャイルに取り組まないと生き残れないかもとの危機感

※ 予測型がなくなるという意味ではない。アジャイルを理解し選択肢として選べることが重要



組織 適用

組織導入し★
たいが何処
から始めれ
ば良い？

契約はどう
すればよ
い？

組織への定★
着と拡大方
法は？

PMOでどう★
アジャイル
を取り扱
う？

アジャイル
標準が無い
から始めら
れない？

複数チーム
運用ってど
うやるの？

チーム 運用

立上げ

チームビル
ディングは
どうする？

立上げ時の
準備不足で
前に進めな
い

顧客

お客様の課★
題要求（要
求変更）が
止まらない

プロダクト★
オーナーと
して参加し
てくれない

計画

最初の計画★
通りに進ま
ない

要求の伝え
方がうまく
いかない

体制

適性人財が★
居ないので
始められな
い

アジャイル
での役割分
担がうまく
いかない

実施

教科書通り★
にやっても
うまくいか
ない

関係者の意
識統一がう
まくいかな
い

レビューや
会議が発散
してしまう

プラクティ
スがうまく
機能しない

労務管理が
難しくなっ
た（残業増
加）

ミニウオー
ターフォー
ルになって
しまう★

生産効率が
上がらない

品質が悪く★
なってし
まった

改善ループ
が機能しな
い

人財 育成

アジャイル★
の知識が足
りない

スクラムマ
スターが育
てられない

プロダクト
オーナーを
育てられな
い

アジャイル
コーチを自
前で育てた
い

★ 良くあるお悩み
★★ 特に多いお悩み

3つの支援とその相乗効果で 効果的な支援を提供します

チーム運用支援

- ① アジャイルコーチ
- ② アジャイルプロセス改善支援
- ③ チーム立ち上げ支援
- ④ スクラムマスター代行
etc.

10年以上にわたる豊富なアジャイル開発実践経験者のノウハウを浸透させたアジャイルスペシャリスト陣にて、教科書的ではない実践的なサポートを実施いたします。あるべき論だけでなく、どうしたらお客様が実効的な成果を上げられるかという視点でご支援し、その結果が必ずしも純粋なアジャイルを続けることではなかったとしても、躊躇なく実効的な選択肢をご提案いたします。

ディシプリンド・アジャイル (DA) をベース

一つのフレームワークや、やり方に拘らず、自分たちの特性に合わせて選択して使うためのハイブリッドツールキットです。全てのプロジェクトは独自性がありユニークです。であればScrum、XP、SAFe、LeSS等多数あるアジャイルのフレームワークやプラクティス等の中から自分たちのプロジェクトを成功するための最適なものを選択し適応することが肝要です。MSOLではこの考え方で、お客様の組織の特性にあった最適な解と一緒に考え、作り上げていく実行支援をさせていただきます。

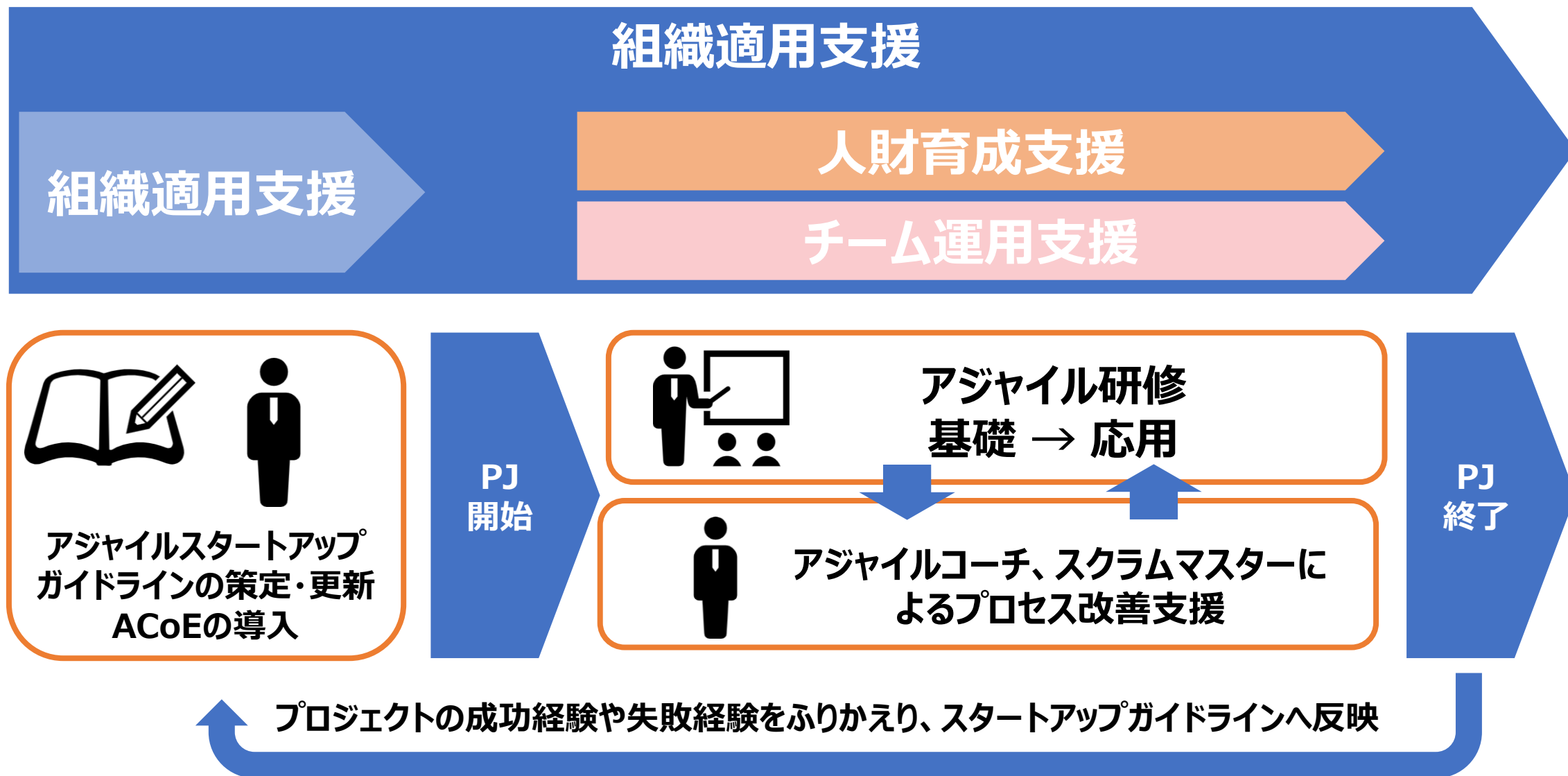
組織適用支援

- ① 組織への導入・定着
- ② ACoE(アジャイルセンターオブエクセレンス)
※ PMBOK®におけるアジャイル向けPMO
- ③ スタートアップガイドライン
作成支援
etc.

人財育成支援

- ① 基礎研修コース
これからアジャイルを始める方に
- ② 応用研修コース
既にアジャイルを実践している方に

- 【基礎】 いまさら聞けないアジャイルの実際～最新動向とともに～【2hr】
- 【基礎】 PMBOK®第7版の大転換とアジャイル～プロセス重視から原則重視へ～【1.5hr】
- 【基礎】 PMBOK®第7版 基礎研修～大転換の意図と全体概要～【2.5hr】
- 【基礎】 アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎【1day】
- 【応用】 マネジメント視点でみたプロダクトオーナーのお仕事【1day】
- 【応用】 マネジメント視点でみたスクラムマスターのお仕事【1day】
- 【応用】 マネジメント視点でみた開発チームのお仕事【1day】 (開発中)
- 【応用】 アジャイルでも使えるモダン開発技法【4hr】

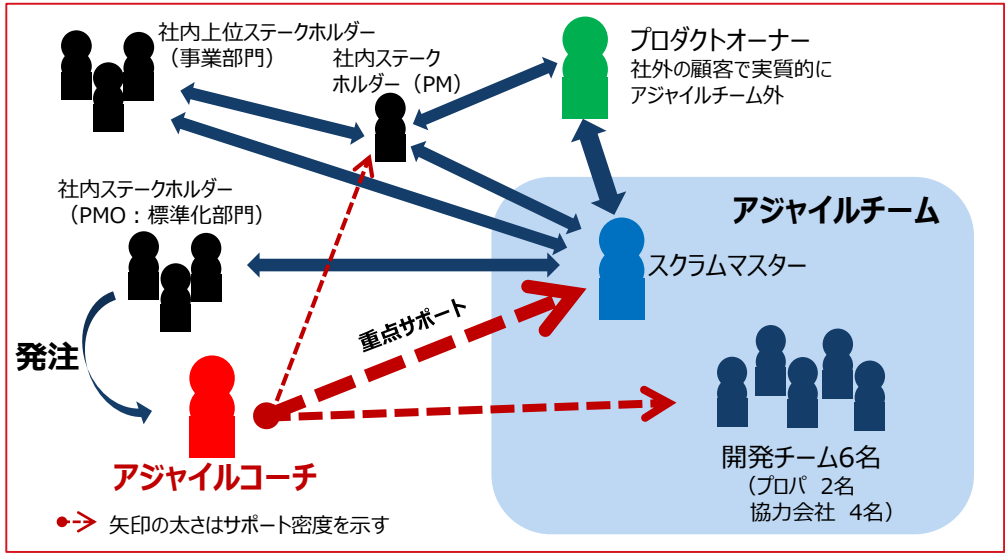


【背景】

チーム
運用

- ✓ 大手SIerの全社PMO（標準化部門）からの自社事業部門の実プロジェクトに対してのアジャイルコーチ依頼
- ✓ 従来型開発で受託開発し運用フェーズに入っているシステムでプロダクトオーナーは社外の顧客
- ✓ 要求のリードタイムを短縮するためにアジャイルを導入したがその事業部にとっては初めてのアジャイルであり3か月たったがうまくいかず、ミニウォーターフォールとなっていたのでアジャイルコーチを依頼された

【役割と成果】



期間

半年 (0.2人月/月)

役割

- ✓ チームの目標の再すり合わせ
 - インセプションデッキ作成
- ✓ スクラムマスター支援
 - スクラムマスターへのコーチング
 - ベロシティ算出の基準作成支援
 - イベントファシリテーション支援
- ✓ 開発チーム支援
 - アジャイルプロセスの定着化
 - ストーリーポイント見積りのコーチング
 - プランニング時のタスク分割のコーチング
- ✓ PM支援 (社内上位ステークホルダーへの説明支援)
- ✓ 成功事例としてSierでの事例講演

成果

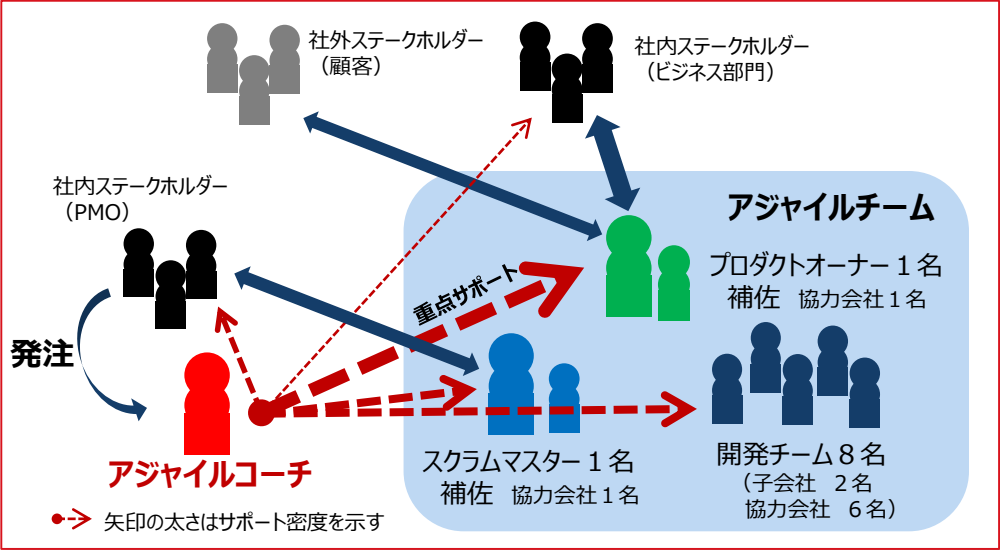
- ✓ リードタイムが改善され、終盤には残プロダクトバックログが枯渇しかける程に
- ✓ ミニウォーターフォールだった状態からきちんとしたアジャイルプロセスへ改善
- ✓ 上意下達だったコミュニケーションが自律的コミュニケーションへ変化
- ✓ スクラムマスターに自信が付き、自社内の成功事例として見学が多数来るようになった
- ✓ 成功事例としてSier社内向けに事例講演を実施

【背景】

チーム運用
人財育成

- ✓ 地方電力会社（ユーザ企業）のPMOからの依頼
- ✓ 自社新規サービス（内製）の立ち上げ開発（1stカスタマー獲得済み）
- ✓ アジャイルの開発実績はあるが、うまく成功したとは言えず今回は失敗できないため専門家（アジャイルコーチ）を導入

【役割と成果】



期間	半年（立上期0.6人月/月→実行期0.2人月/月）
役割	✓ アジャイルチームへの初期教育（研修） ✓ チーム立ち上げ支援（スプリント開始前） ➢ インセプションデッキ作成（PJ計画書相当） ➢ ユーザストーリーマッピング ➢ 初期プロダクトバックログ作成 ✓ プロダクトオーナー支援（メイン） ➢ 社内ステークホルダーとの調整 ➢ プロダクトバックログの最新化 ✓ スクラムマスター及び開発チーム支援 ➢ アジャイルプロセスの定着化 ➢ スクラムマスターへのコーチング ✓ 社内PMOとの連携支援

- 成果
- ✓ アジャイル未経験のメンバーにて初期研修を実施
 - ✓ チーム立ち上げ支援を実施しアジャイルチームを約 1 か月で無事立ち上げ
 - ✓ ビジネスゴールがあいまいな状態から社内ステークホルダー（ビジネス部門）との議論をサポートし方針決定を支援
 - ✓ プロダクトバックログ管理を軸に主にプロダクトオーナーへの支援を行い、価値の高いプロダクトを約半年で開発
 - ✓ その後完熟期間を経てエンドユーザーへの提供までこぎつけた

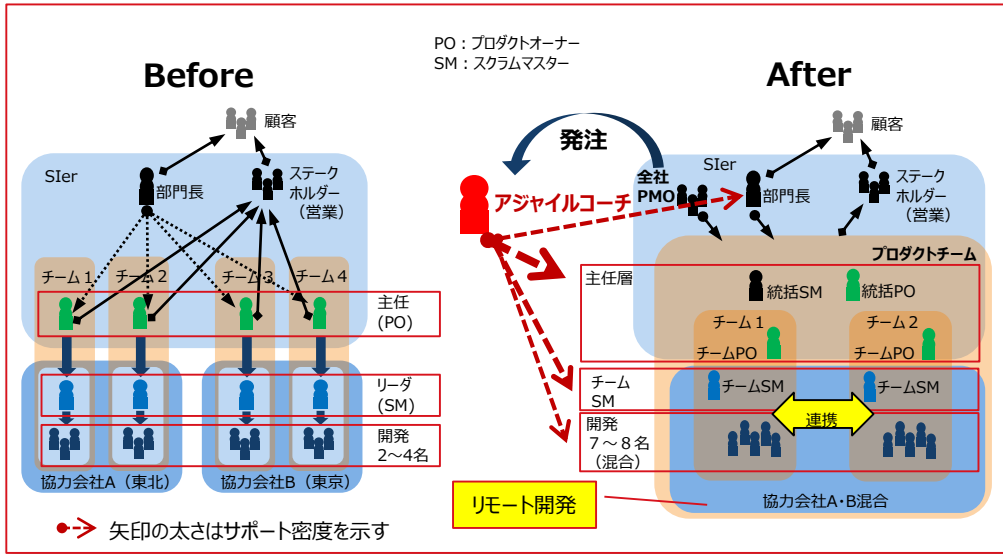
【背景】

組織
適用

チーム
運用

- ✓ 大手SIerの全社PMO（標準化部門）からの自社事業部門の自社サービス開発に対してのアジャイルコーチ依頼
- ✓ 従来型開発で自社開発していたが、ビジネス状況の変化に応えるために1年前にアジャイルに転換
- ✓ 事業部門としては初めてのアジャイル。従来開発時のサブシステム毎に複数拠点（東京、東北）複数チーム（計4チーム）の既存体制で開発していたが、アジャイルに転換した効果があまり得られていない

【役割と成果】



期間

半年（0.4人月/月）

役割

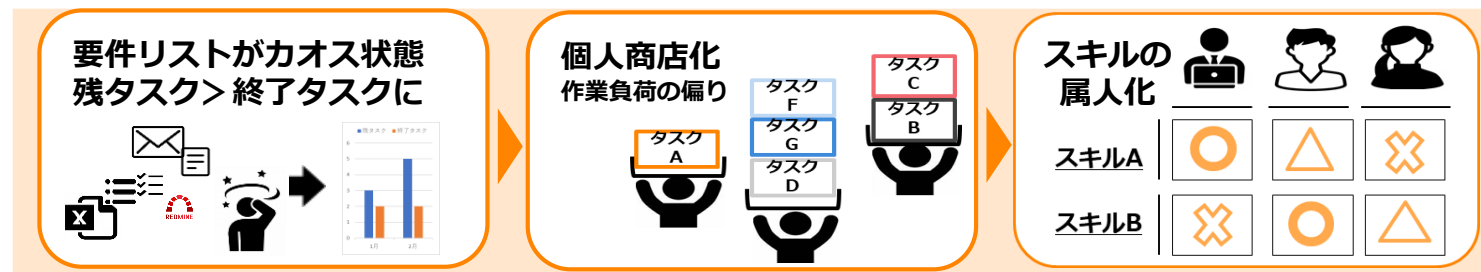
- ✓ アセスメント（ヒアリング）
- ✓ プロダクトチームへの体制変更支援
 - 段階的に徐々に実施
 - 部門長への必要性説得
- ✓ 複数チームのマネジメント支援
 - 主任層の役割分担の再定義とそのコーチング
 - 協力会社間意識合わせ（リーダー層へのコーチング）
 - プロダクトバックログの一元化と複数チームへの分配
 - アジャイルプロセス実行支援
- ✓ リモートアジャイル支援
 - ✓ リモート環境下でのノウハウの提供
 - ✓ アジャイルコーチ自体もリモートにて実施

成果

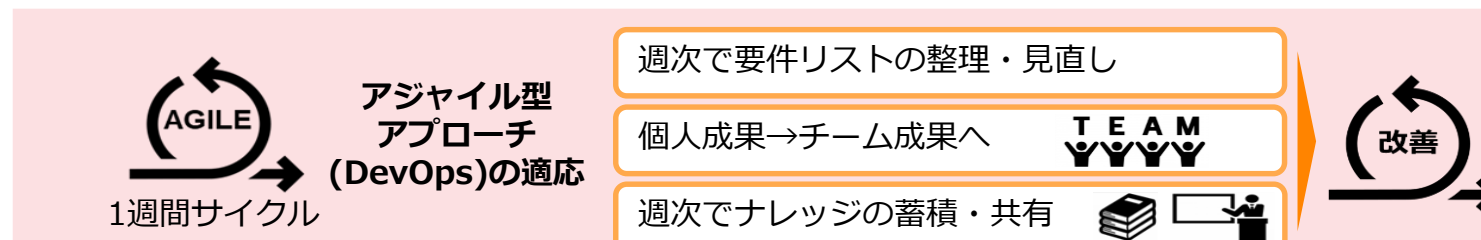
- ✓ 支援前の実態は従来型開発のサブシステム単位のチームの上意下達状態だったものを一つのプロダクトを作るプロダクトチームへ体制変更支援（部門長への説得含む）
- ✓ チーム規模が大きいので連携しあう2チーム体制に再編しながら、協力会社間で発生しやすいサイロ化を防ぐため混合チーム化を実現。その際物理的距離があるためリモートアジャイルを適用
- ✓ プロダクトとしての統一性が図られ、プロダクトバックログを一元化したためビジネス変化対応性が格段に向上

よくあるプロダクト開発PJが対象ではなく、システム運用部門の業務改善を目的としたアジャイル（DevOps）の導入・定着をコーチ&コンサルタントとして支援

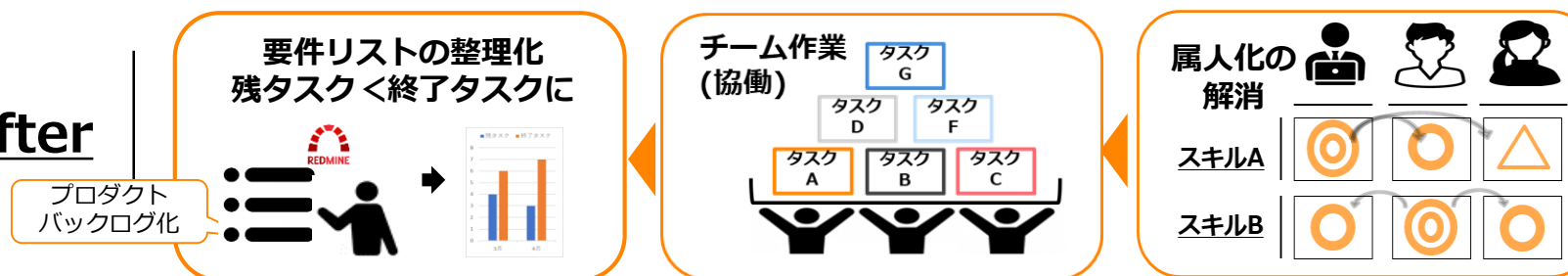
Before



Action



After



企画立案段階（3か月間）から参画し、その後8か月間でお客様自身で自走できるところまで到達した

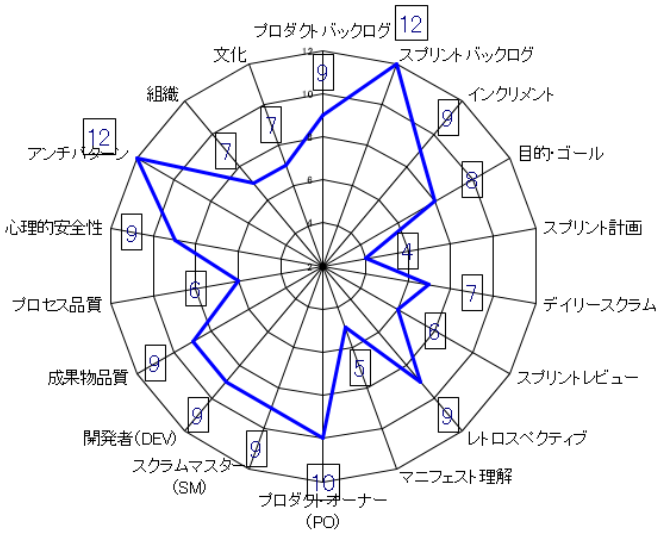
アジャイルプロジェクト診断用 回答シート

【調査シート】
・以下の54問の設問に対し、自分のプロジェクトが、あてはまるのか、あてはまらないのかを4段階で回答していただきます。
・回答欄には数字の1～4で入力してください。(1:あてはまる 2:どちらかといえばあてはまる 3:どちらかといえばあてはまらない 4:あてはまらない)
・1問あたり10秒程度で、自分に照らし合わせて直感的に回答してください。全問回答の目安時間は10分間です。全問必ず回答してください。

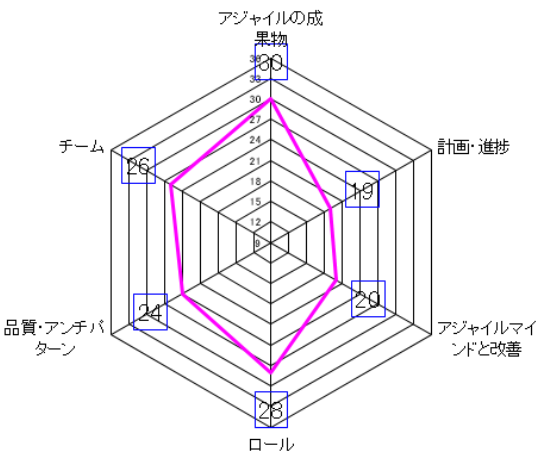
No	設問	回答(1～4)
1	プロダクトバックログはなるべく詳細に記載するようにしており、その実現方法も記載している	4
2	一度洗いだしたtryや課題は管理してクローズまで見届ける	3
3	作業見積もりは、実際に作業を行う開発チームが行っている	1
4	得意分野以外のタスクも積極的に実施することを奨励し、スキルの均質化に努めている	4
5	アジャイルチーム内で情報格差があると感じる	1
6	テストまで実施できていないユーザーストーリーは、仕掛中であるためスプリントレビューでは出さないようにしている	3
7	大きいプロダクトバックログは複数スプリントにまたがって実施するのではなく、適切な大きさに分割して、それぞれスプリント内に終了するようにしている	2
8	タスクボードのステータスは開発チームの責任で毎日更新している。	
9	プロダクトバックログの管理がアジャイル成功の鍵なので、時間短縮のためプロダクトオーナー以外の人でも自由に変更できる。	
10	スプリントによっては、成果物がないスプリントも存在することはよくある	
11	タスク管理しやすいように、半日から1日の大きさのタスクに分割するようにしている。	
12	アジャイルソフトウェア宣言については、チームメンバーであれば誰でもアジャイルを知らない第3者に説明できるようにしている	
13	顧客に毎日、その日の成果物について報告している	

入力	回答の選択肢
1	あてはまる
2	どちらかといえばあてはまる
3	どちらかといえばあてはまらない
4	あてはまらない

18項目のレーダチャート



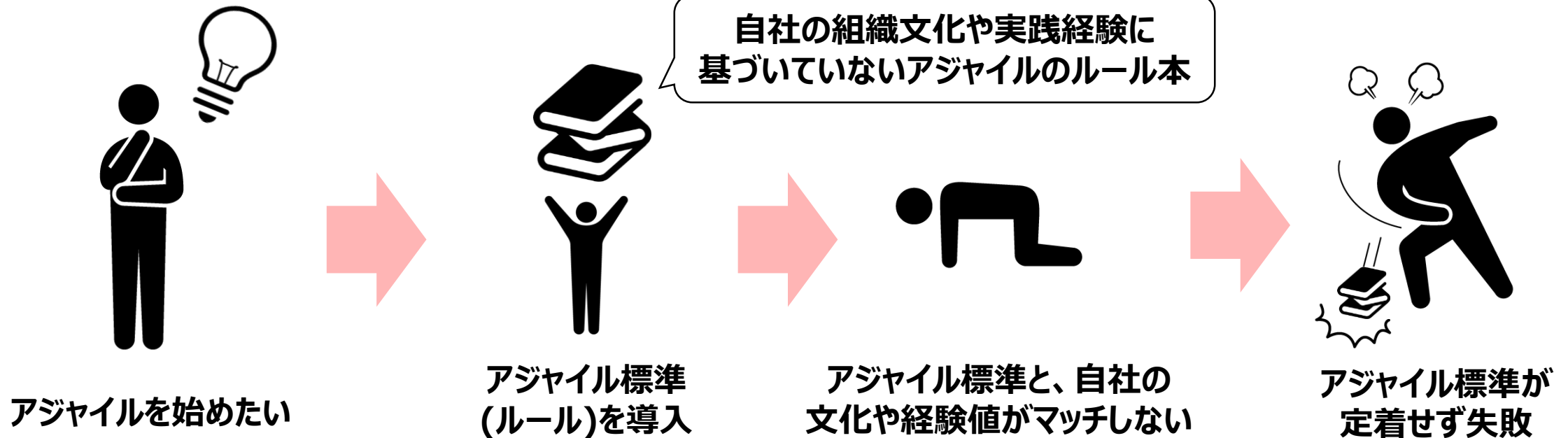
6項目のレーダチャート



実際に自分たちでアジャイルを実践してみても、うまく運用できていないケースが多々あります。
MSOLのアジャイルの知見を基に考えた54問の設問にお答えいただくことで、何処に問題があるのかを可視化し、その結果を踏まえて効果的な改善案を提案し、定着するまで実行支援します。

アンチパターン

※実際の事例

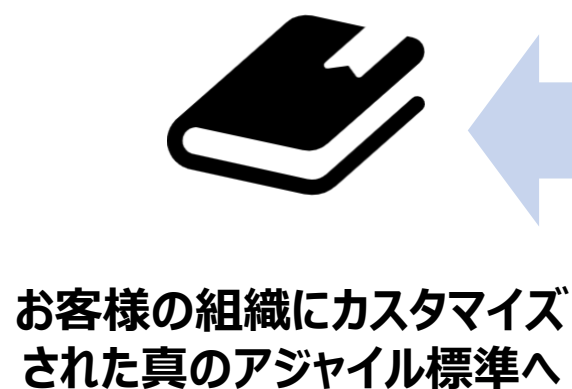
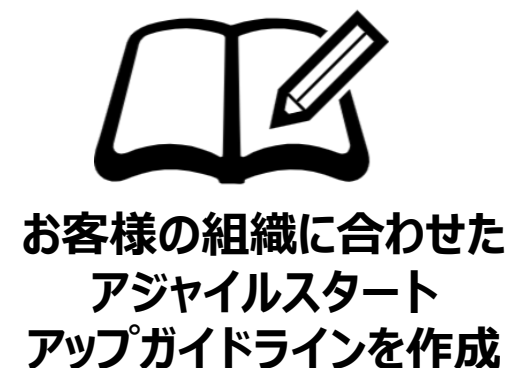


成功パターン



組織文化や実践経験に基づいた
アジャイルの出発点を示したガイドライン

※実際の事例



成功・失敗体験をもとに
ガイドラインを継続的に更新

ガイドラインをもとにお客様先の
組織でアジャイルを推進

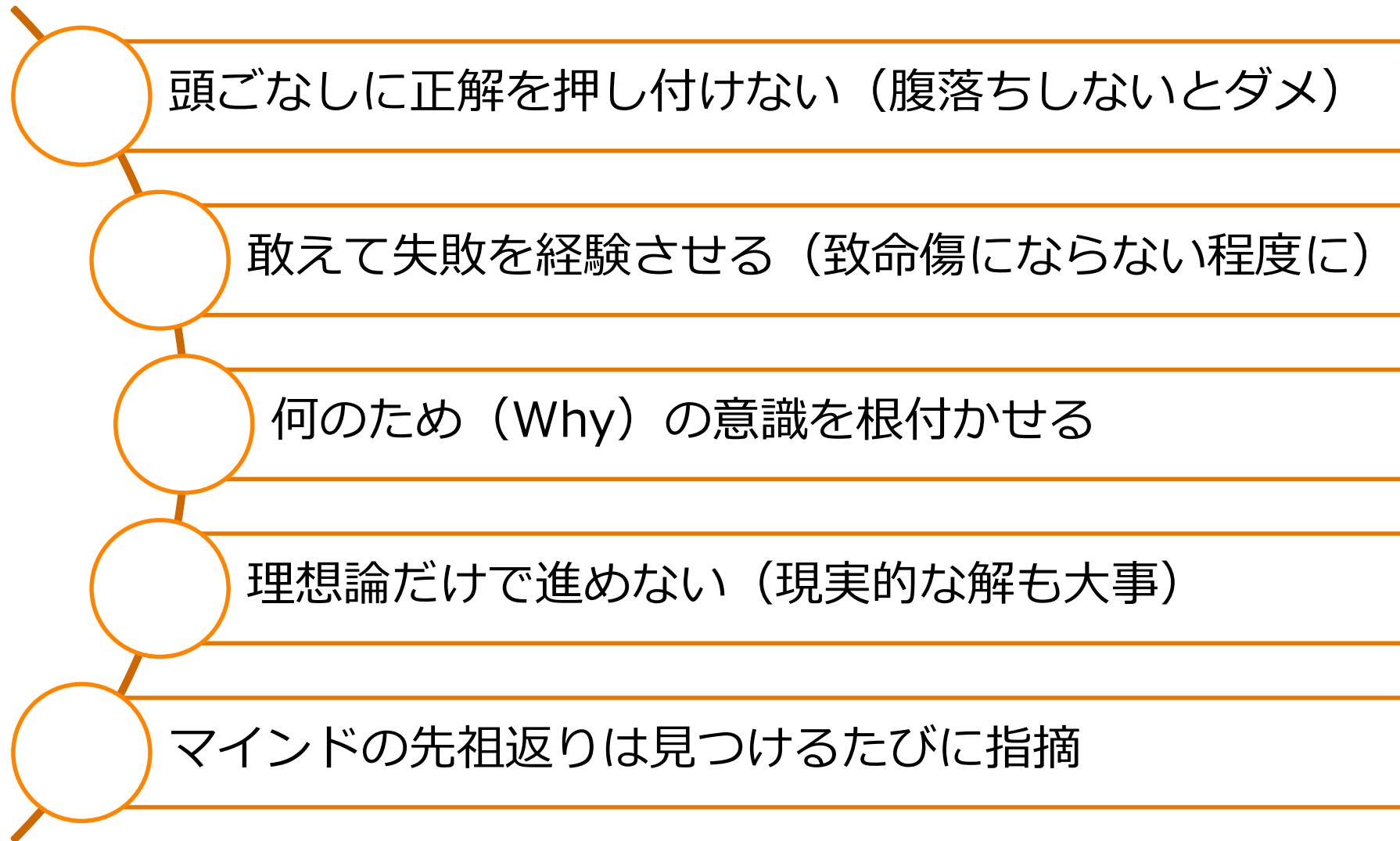
【実績紹介】 直近2年のアジャイルコーチ・コンサル実績一覧

No.	実施時期	案件	お客様	タイプ	備考
1	2020/1-6月	自社サービス開発アジャイルコーチ	大手SIer A	アジャイルコーチ + アジャイルコンサル（チーム体制変更）	複数チーム体制 + 複数拠点
2	2020/2-3月	受託開発向けアジャイルコーチ	大手SIer A	アジャイルコーチ	
3	2020/6-11月	受託開発向けアジャイルコーチ	大手SIer A	アジャイルコーチ + チーム立ち上げ	完全リモート支援
4	2020/10-2021/8月	DevOps化支援	大手金融系グループシステム子会社	アジャイルコンサル（アジャイル導入支援） + アジャイルコーチ	前ページの 事例紹介案件
5	2021/1-2月	受託開発アジャイルプロジェクト診断	大手SIer B	アジャイルプロジェクト診断	完全リモート支援
6	2021/2-4月	情報システム部組織診断	大手金融系ITサービス提供会社	その他（業務診断+改善提案）	
7	2021/4-12月	自社サービス開発アジャイルコーチ	大手エネルギー会社	アジャイルコーチ+アジャイル研修	1チーム体制から2チーム体制への スケーリング支援
8	2021/6-9月	インフラ開発アジャイルコーチ	大手SIer C	アジャイルコンサル+アジャイルコーチ	完全リモート支援
9	2021/11-2月	アジャイルスタートアップガイドライン策定	大手エネルギー会社	アジャイルコンサル(ガイドライン策定支援)	
10	2022/1~継続中	インフラ保守アジャイルコーチ	大手SIer C	アジャイル研修+アジャイルコンサル + アジャイルコーチ	複数(5チーム)同時対応
11	2022/4~継続中	自社サービス開発アジャイルコーチ	大手エネルギー会社	アジャイルコーチ+アジャイル研修	

アジャイルコーチ
 アジャイルコンサル

【実績紹介】直近2年のアジャイル研修実績一覧

No.	実施時期	案件	お客様	備考
1	2020/3月	マネジメント視点でみたプロダクトオーナーのお仕事	大手自動車系情報子会社	
2	2021/1月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手金融系グループシステム子会社	
3	2021/4月	マネジメント視点でみたプロダクトオーナーのお仕事	大手グローバル会社	
4	2021/5月	マネジメント視点でみたプロダクトオーナーのお仕事	大手エネルギー会社	
5	2021/5月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手Sier C	
6	2021/8-9月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手Sier C	
7	2022/2月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手Sier C	
8	2022/2月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手電機系情報子会社	
9	2022/2月	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル	IPA 独立行政法人 情報処理推進機構	
10	2022/2月	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル	一般社団法人	
11	2022/2月	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル	大手Sier D	2回実施
12	2022/2月	いまさら聞けないアジャイルの実際～最新動向とともに～	大手流通会社	
13	2022/3月	いまさら聞けないアジャイルの実際～最新動向とともに～	大手重工業会社	
14	2022/3月	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル	大手電気通信会社	
15	2022/3月	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	大手重工業会社	
16	2022/3月	いまさら聞けないアジャイルの実際～最新動向とともに～	大手電機メーカー	
17	2022/4月	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル	大手インフラ会社	
18	2022/4月	マネジメント視点でみたスクラムマスターのお仕事	大手電機系情報子会社	



補足資料①

人財育成支援のコンテンツ

以下の研修コースを用意しています

レベル	タイトル	時間
基礎	いまさら聞けないアジャイルの実際～最新動向とともに～	2時間
基礎	PMBOK®第7版の大転換とアジャイル ～プロセス重視から原則重視へ～	1.5時間
基礎	PMBOK®第7版 基礎研修 ～大転換の意図と全体概要～	2.5時間
基礎	アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎	8時間(終日)
応用	マネジメント視点でみたプロダクトオーナーのお仕事	8時間(終日)
応用	マネジメント視点でみたスクラムマスターのお仕事	8時間(終日)
応用	マネジメント視点でみた開発チームのお仕事(開発中)	8時間(終日)
応用	アジャイルでも使えるモダン開発技法	4時間

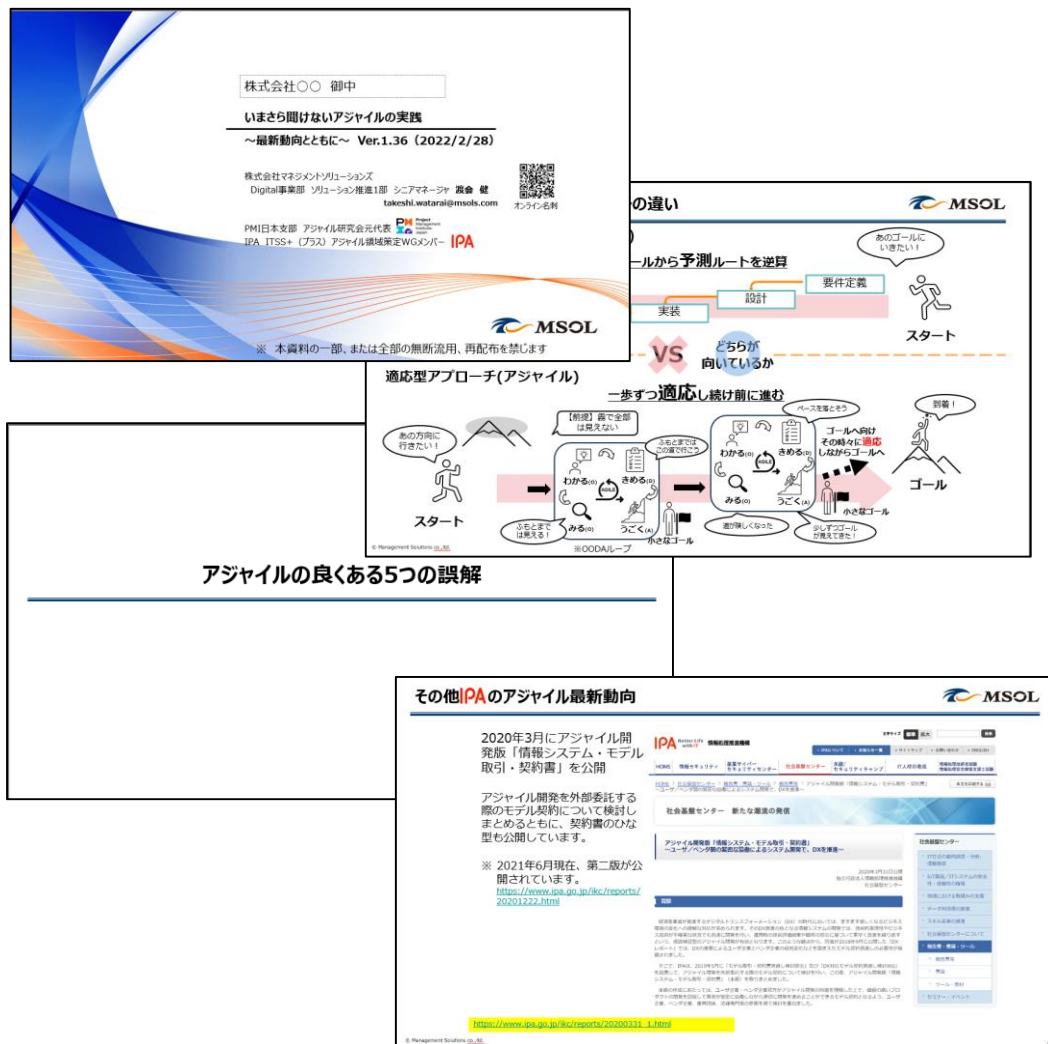
【4時間以下の研修の場合】

- ◆ オンサイト開催の場合
 - ◆ 原則御社で会場をご用意ください
 - ◆ 会場に収容できる人数であれば制限はございません
- ◆ リモート開催の場合
 - ◆ 人数に制限はございません
 - ◆ 原則御社で配信環境をご用意いただきます
 - ◆ ご用意できない場合は、応相談

【8時間(終日)研修の場合】

- ◆ 研修時間は9:00-18:00が基本です
 - 実質8時間分の時間を確保できれば、開始時間、終了時間は調整可能です。
- ◆ オンサイト開催／リモート開催どちらでも可能ですが、1回あたりの最大受講生数が異なります。(演習の実施効果を担保するため)
 - オンサイト開催 最大24名迄
 - ✓ リアルでの集合研修
 - リモート開催 最大15名迄
 - ✓ Zoomによるリモート研修。ブレイクアウトルーム利用。

研修概要



株式会社〇〇 御中

いまさら聞けないアジャイルの実際
～最新動向とともに～ Ver.1.36 (2022/2/28)

株式会社マネジメントソリューションズ
Digital事業部 ソリューション推進1部 シニアマネージャ 渡辺 健
takeshi.watanabe@msols.com
オンライン名刺

PMI日本支部 アジャイル研究会代表
IPA ITSS+ (7/25) アジャイル領域認定WGメンバー IPA

MSOL

※ 本資料の一部、または全部の無断流用、再配布を禁じます

の違い

MSOL

ゴールから予測ルートを逆算

要件定義

設計

実装

スタート

VS

どちらが向いているか

ゴールへ向けてその時々で適応しながらゴールへ

ゴール

スタート

適応型アプローチ(アジャイル)

一歩ずつ適応し続け前に進む

ゴール

スタート

アジャイルの良くある5つの誤解

その他IPAのアジャイル最新動向

MSOL

2020年3月にアジャイル開発「情報システム・モデル取引・契約書」を公開

アジャイル開発を外部委託する際のモデル契約について検討し、まとめるとともに、契約書のひな型も公開しています。

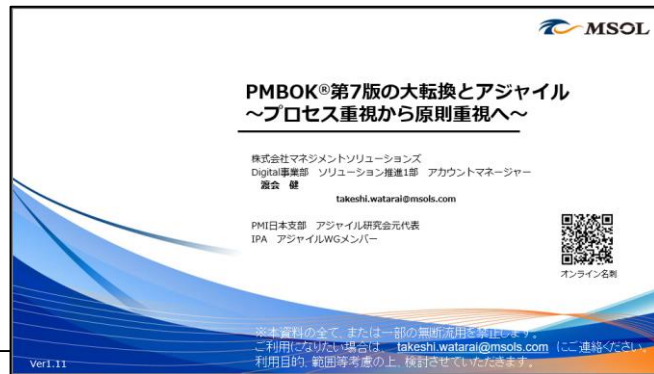
※ 2021年6月現在、第二版が公開されています。
<https://www.ipa.go.jp/ikc/reports/20201222.html>

https://www.ipa.go.jp/ikc/reports/20201222_1.html

【研修概要】

- 短時間でアジャイルの特徴や誤解、最新動向を啓蒙する講座です
- 以下の5つの疑問に応えます
 - アジャイルって一言で言って何なの？
 - アジャイルって色々聞くけど本当のところどうなの？
 - アジャイルの国内外の最新動向ってどうなっているの？
 - 組織導入への注意点や導入事例は？
 - 実際にやってみてどうなの？
- まずはアジャイルに興味はあるけどちょっと有識者の話を聞いて見たいというお客様等にお勧め
- アジャイルについて全く予備知識が無いけど初めて見たいと思わせるリード的な内容になっています
- PMIイベントや学会、大手Sierやユーザ企業での講演実績も多数あるコンテンツです
- ただし、短時間なのでスクラムなどの具体的なやり方の説明はや演習は含まれていません
- リモートのみでもオンサイトでもどちらでも実施可能です

研修概要



よくある2つの誤解①

PMBOK®ではプロジェクトを
「独自のプロダクト、サービス、
所産を創造するために実施される有期的な業務」
と定義しています。



PMBOK®での知識体系が適応されるのはITプロジェクトに限らない

PMBOK®第7版とアジャイルマニフェストの12の原則

4 PMBOK®第7版の12の原則

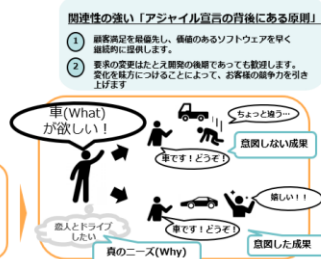
価値に焦点を合わせます
Focus on Value

価値はプロジェクト成功の
究極の指標です

成果物
(What) → 意図した成果
(Why)

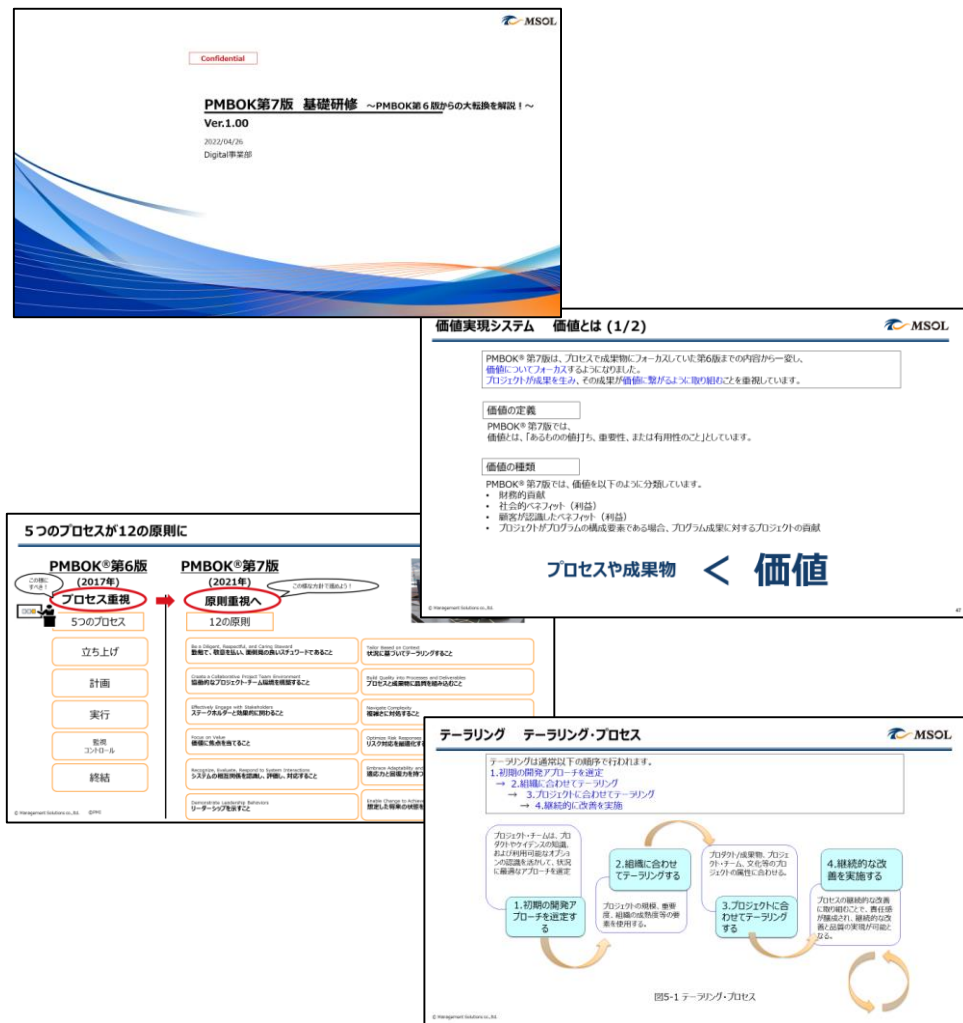
プロジェクト・チームは、成果物から
意図した成果(=価値)を重視に

※プロジェクトの目的は、価値のあるソリューションでニーズに対応する望ましい結果を提供することと明記された



- 2021年10月に日本語版がリリースされた、PMBOK®第7版の大転換の内容とアジャイルの関連性について短時間でお伝えする啓蒙講座です
- 以下の5つをお伝えします
 - アジャイルの市場動向
 - アジャイルの概要説明
 - PMBOK®のよくある誤解
 - PMBOK®第6版から第7版への主な変更点
 - PMBOK®第7版の12の原則とアジャイルの12の原則
- Agile Japanや、IPA、大手Sierやユーザ企業での講演実績も多数あるコンテンツです
- ただし、短時間にまとめている関係でPMBOK®第7版の12の原則以外については中身について多くは触れておりません。
- PMBOK®第7版の全体概要を把握されたい場合は、別研修である「PMBOK®第7版 基礎研修」を受講ください。
- リモートのみでもオンサイトでもどちらでも実施可能です

研修概要



- 2021年10月に日本語版がリリースされた、PMBOK®第7版の大転換の内容や全体の概要についての基礎研修です
- そもそもPMBOK®とは何かを説明後、PMBOK®第7版の章立てになぞらって全般的に何が書かれているかの概要を説明するとともに、なぜ今回のような大転換と言われる改編を行ったかの意図を読みとき解説します。
- アジェンダは下記となっています
 - そもそもPMBOK®とは
 - いまままでのPMBOK®
 - PMBOK®第6版→第7版の変更概要
 - プロジェクトマネジメント標準編
 - 価値実現システム
 - プロジェクトマネジメント標準の原理・原則
 - プロジェクトマネジメント知識体系編
 - プロジェクト・パフォーマンス領域
 - モデル、方法、作成物
 - テーラリング
- PMBOK®初学者でも受講できる講座となっています
- リモートのみでもオンサイトでもどちらでも実施可能です

【研修概要】

- **アジャイルとは単なるフレームワークではなく成果に対するアプローチを変える事**です。
- その際に**一番大事になってくるアジャイルマインド**の解説を中心にみっちり行う1日研修です。
- この**アジャイルマインド**に研修の約半分の時間を割くほど**重点を置いている研修コース**はあまりありません。
- アジャイルマインドだけではなく、スクラムをベースとした基本的なアジャイルのやり方も併せて行います。
- 単なるスクラムの解説だけではなく、**実践経験を踏まえたTipsも加えて解説**します。
- アジャイルを基礎からじっくり学びたいかた、これからアジャイルを実践しなければならない方向けへの基礎講座です。
- グループ演習を実施し、**座学だけではなく体験していただきながら定着**を図ります。
- **研修専門会社の研修コースと異なり**、その後のアジャイルコーチやアジャイル導入コンサルティング支援を私たちが行う前段として実施することで、**より効果を発揮しやすい内容**にもなっています。



本研修のゴール

- アジャイルの基本的なマインド・考え方を理解し、体験する
- アジャイルの基本的なプロセスを理解する
- アジャイルに用いられやすいプラクティスを体感し、意味を理解する

受講対象者

- 仕事でソフトウェア開発をした経験の無い方
- アジャイルに対する基本を学びたい方
- 基礎だけでなく、実践応用も学びたい方

想定受講者のレベル

- 文系・理系を問いません
- 社会人経験も業務経験も不問です
- システム開発経験も問いません

研修概要



プロダクトオーナーとは

プロダクトの責任者としてふるまう

プロダクトの責任者として

- ① プロダクトの価値を最大化する
- ② プロダクトバックログのオーナーを務める
- ③ プロダクトの細部に渡って即断即決する
- ④ チームの船頭役を務める
- ⑤ ステークホルダーやチーム等と調整する

- プロダクトオーナーは、スクラムチームから生み出されるプロダクトの価値を最大化することの結果に責任を持つ。
- 組織・スクラムチーム・個人によって、その方法はさまざまである。
- プロダクトオーナーは、効果的なプロダクトバックログ管理にも責任を持つ。たとえば、
 - プロダクトゴールを策定し、明示的に伝える。
 - プロダクトバックログアイテムを作成し、明確に伝える。
 - プロダクトバックログアイテムを並び替える。
 - プロダクトバックログに透明性があり、見える化され、理解されるようにする。
- 上記の作業は、プロダクトオーナーが行うこともできるが、他の人に委任することもできる。
- いずれの場合も、最終的な責任はプロダクトオーナーが持つ。
- プロダクトオーナーをうまく機能させるには、組織全体でプロダクトオーナーの役割を尊重しなければならない。
- その決定は、プロダクトバックログの内容や価値、およびスプリントレビューでの検査可能なインクリメントによって見える化される。
- プロダクトオーナーは 1 人の人間であり、委員会ではない。
- プロダクトオーナーは、多くのステークホルダーのニーズをプロダクトバックログで表している場合がある。
- ステークホルダーがプロダクトバックログを変更したいときは、プロダクトオーナーを説得する。

出典：スクラムガイド2020版より

実践演習 2

プロダクトオーナーとしての仮想プロジェクト体験

- アジャイルを実践する上で**最も重要なロールであるプロダクトオーナー**が何をすべきかを学ぶ講座です
- 疑似プロジェクトの**演習に6割以上の時間を割き**、より実践的に体験いただきます
- ユーザ企業様のプロダクトオーナー的なふるまいをする方にお勧めの講座です
- スクラムマスター向けの研修は他社にも多々ありますが、プロダクトオーナー向けの講座は希少です
- 【基礎】アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎の受講生相当の知識と経験があることが受講条件です**

本研修のゴール

- プロダクトオーナーのやるべきこと、やるべきでないことを実践し、体感する
- 仮想プロジェクトを通じて自分なりの気づきを得る

受講対象者

- アジャイル開発に主にプロダクトオーナーとして関与する方
 - 主にスクラムマスターや開発チームとして関与する方についても最低限の動きは学べます
- プロダクトオーナーがどのような役割や責任を負っているかを理解し、体感したい方
- 知識のみをゼロから得たい方には不向きです（座学は8時間中2時間程度しかありません）
 - その代わり教科書に書いていない実践的なノウハウを実践演習を通じて体感し、学ぶことができます

想定受講者のレベル

- 自身のビジネスや事業、プロダクトについて自信をもって他者に説明できる方
- 【基礎】アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎の受講生相当の知識と経験があること
 - アジャイルマニフェストとアジャイルの12の原則を他者に説明できるレベルで理解していること
 - スクラムの3つのロール、3つの成果物、4つのイベントについて他者に説明レベルで理解していること
 - プランニングポーカーを使った見積を行った経験がある事
 - アジャイルチームの一員として実践した経験がある事（ロールは問わず）

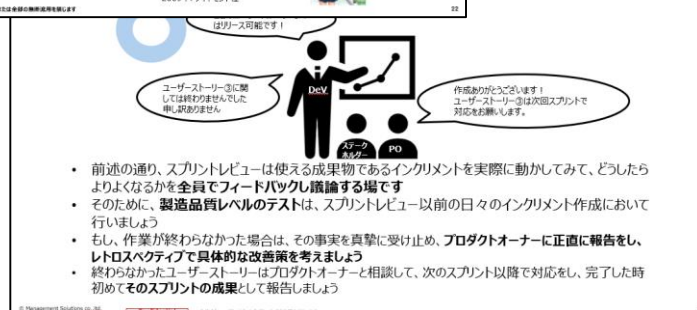
研修概要



アジャイル型ロール（スクラムマスター）

スクラムマスター

- **アジャイルの熟達者として、アジャイルの促進と支援に責任を持つ**
 - ルールや進め方をプロダクトオーナーや開発チームに理解させ、効果的な実践を促す
 - ✓ 教育、アシリ、コーチ、推進役などとして振る舞う
 - 周囲やステークホルダーへのアジャイルの理解浸透を行う
- **真のリーダーとして、アジャイルチームに奉仕・貢献する**
 - サーバントリーダーシップを発揮する（支援と奉仕）
 - アジャイルチーム全体をマネジメントする
 - ✓ プロダクトオーナー vs 開発チーム の構図に陥らないようにする
 - ✓ チームが生み出す価値の最大化、十分なパフォーマンス発揮を後押しする
 - 社内外の妨害からアジャイルチーム全体を守る



はリリース可能です！

ユーザーストーリーに關しては終わらせませんでした、申し訳ありません

作成ありがとうございます！ユーザーストーリーは次回スプリントで対応をお願いします。

スクラムマスター (SM)

プロダクトオーナー (PO)

開発チーム (Dev)

- ・ 前述の通り、スプリントレビューは使える成果物であるインクリメントに実際に動かしてみ、どうしたらよりよくなるかを全員でフィードバックし議論する場です
- ・ そのために、製造品質レベルのテストは、スプリントレビュー以前の日々のインクリメント作成において行いましょう
- ・ もし、作業が終わらなかった場合は、その事実を真摯に受け止め、プロダクトオーナーに正直に報告をし、レトロスペクティブで具体的な改善策を考えよう
- ・ 終わらなかったユーザーストーリーはプロダクトオーナーと相談して、次のスプリント以降で対応をし、完了した時初めてそのスプリントの成果として報告しましょう

- アジャイルイベントにおけるスクラムマスターの実践的な「ふるまい」を理解し体感する講座です
- 代表的なアジャイルイベントでのスクラムマスターのふるまいを体感し、それぞれの意味や目的を理解することができます
- イベントごとに気付くべき実践的な異変の事例を多数紹介しています
- **演習に5割の時間を割き、より実践的に体験いただきます**
- スクラムマスター的なふるまいをする方にお勧めの講座です
- **【基礎】アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎の受講生相当の知識と経験があることが受講条件です**

本研修のゴール

- スクラムマスターの役割を理解する
- アジャイルイベントにおけるスクラムマスターの実践的な「ふるまい」を理解し、体感する
- 代表的なアジャイルイベントでのスクラムマスターのふるまいを体感し、それぞれの意味や目的を理解する

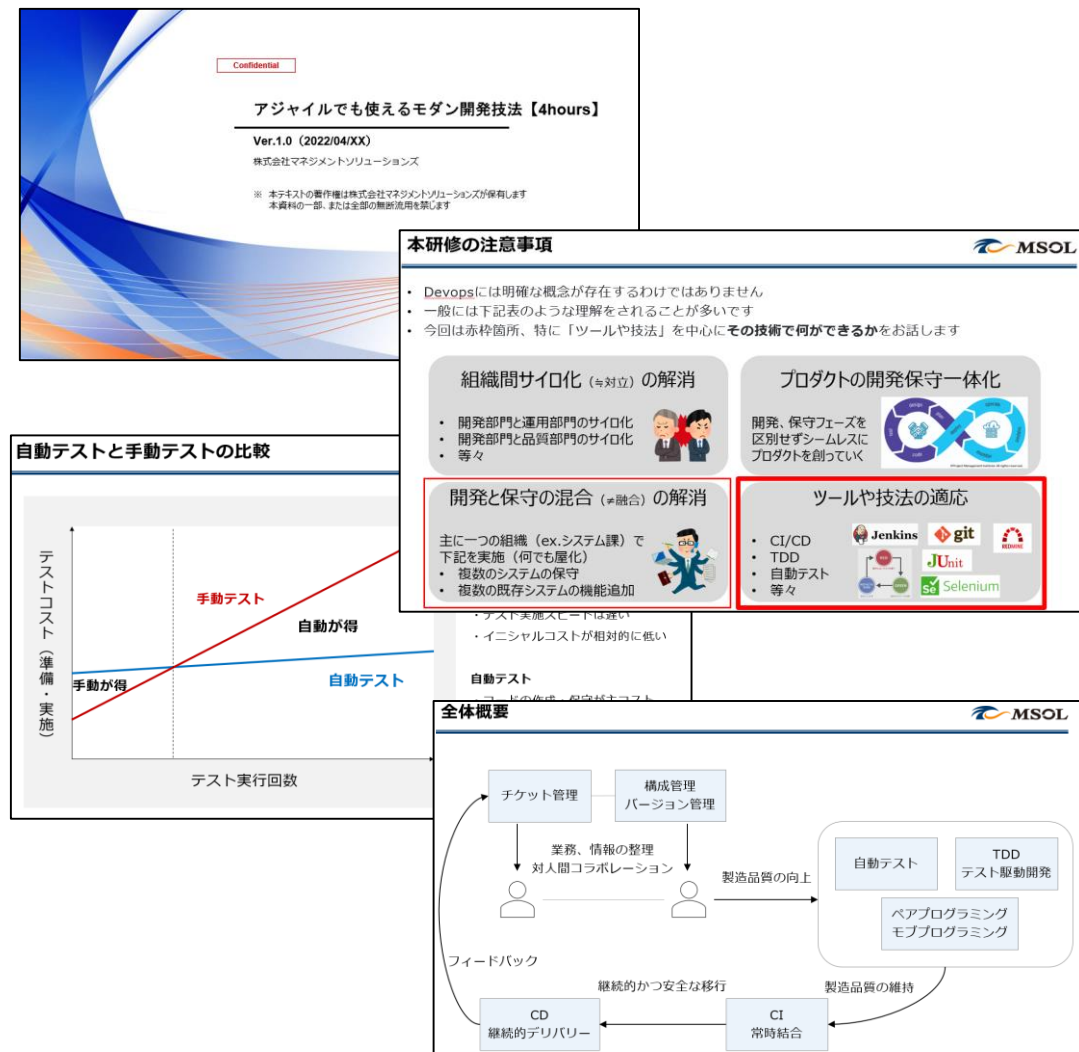
受講対象者

- アジャイル開発に主にスクラムマスターとして関与する方
- スクラムマスターがどのような役割や責任を負っているかを理解し、体感したい方
- 知識のみをゼロから得たい方には不向きです
 - その代わり教科書に書いていない実践的なノウハウを実践演習を通じて体感し、学ぶことができます

想定受講者のレベル

- 【基礎】アジャイルマインドとアジャイルの実践基礎の受講生、及び受講生相当の知識と経験があること
- 受講生相当の知識と経験の例
 - アジャイルマニフェストとアジャイルの12の原則を他者に説明できるレベルで理解していること
 - スクラムのロール、成果物、イベントについて他者に説明できるレベルで理解していること
 - アジャイルチームの一員として実践した経験がある事（ロールは問わず）

研修概要



【研修概要】

- 短時間でアジャイルやDevOpsを構成するツール・技法の概要を説明する講座です
 - ✓ チケット管理
 - ✓ 構成管理
 - ✓ 自動テスト
 - ✓ TDD
 - ✓ ペア・モブプロ
 - ✓ CI/CD
- 以下の4つの疑問に応えます
 - 最近の開発ツール・技法ってどのようなものがあるの？
 - そのツール・技法を導入する際は、何に気を付ければいいのか？
 - アジャイルやDevOpsをやりたいのだけど何をしたらいいの？
 - 導入によって組織にどのような影響があるの？
- ここ5～10年で開発ルールやツールが変化しておらず、新しい効率的な手法を導入したいとお考えのお客様にお勧め
- 現時点で技術について詳しくなくても、概要を理解して導入を進めていくために必要な情報を得ることができる内容になっています
- リモートのみでもオンサイトでもどちらでも実施可能です

本研修のゴール

- 昨今の開発を支えるツール・技法の役割・目的を理解する
- DevOpsの概念を理解し、開発と運用・保守にどう作用するか理解する

受講想定者

- アジャイル開発やDevOpsを始めようと思っている方
- 開発・運用の品質向上とスピードアップを実現させたい方
- 開発・運用にかかわる一連の業務フローを円滑化したい方
- 昨今のツール・技法に興味のある方

受講想定者のレベル

- システム開発の構築～運用を実践・管理・関与されたことのある方
- 開発フロー・ツールの見直しがここ5～10年以上行われていないという方

補足資料②

組織適用支援のベースとなる『ディシプリンド・アジャイル』

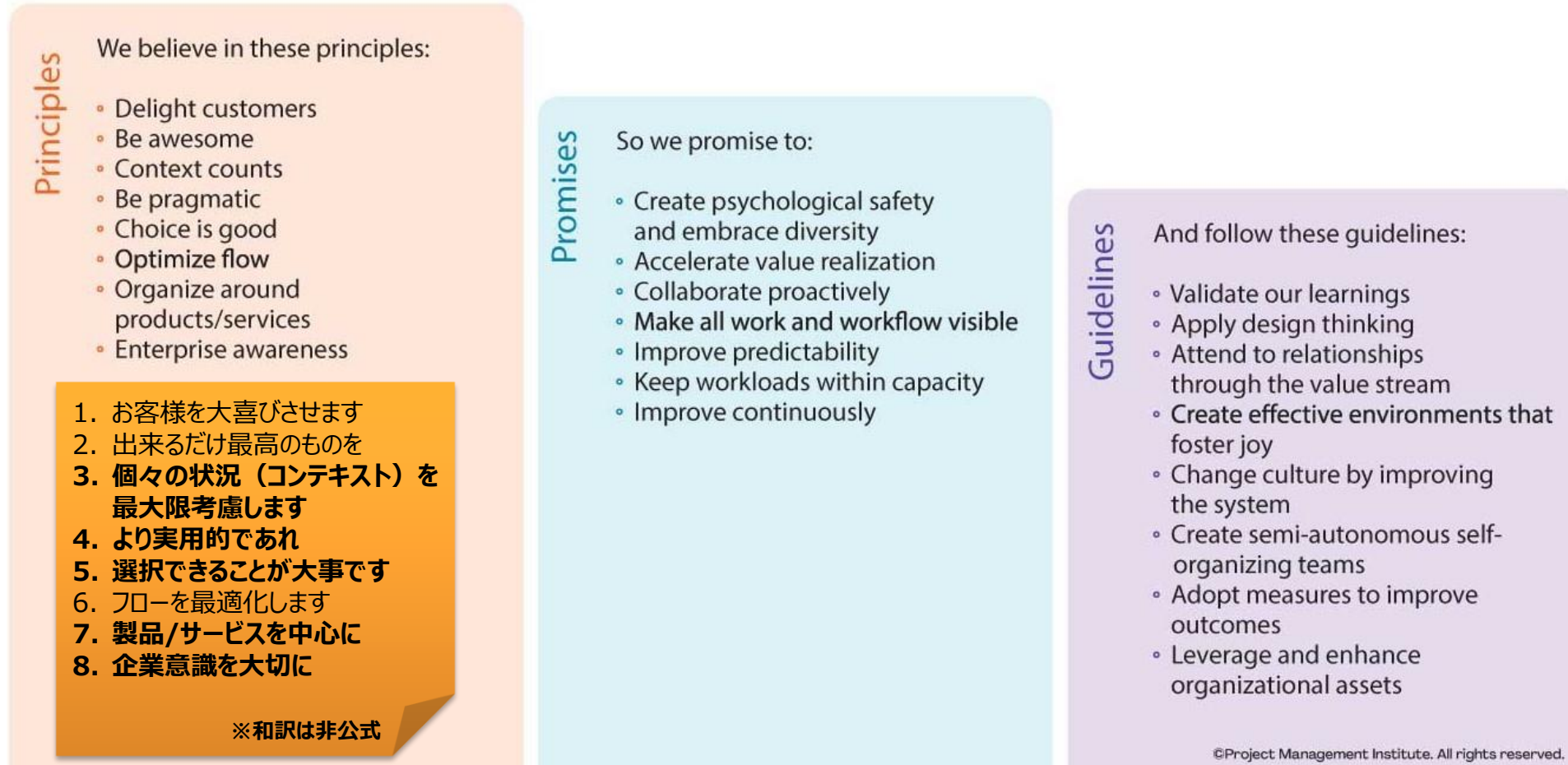
どれか一つのフレームワークややり方に拘らず、選択して使うためのハイブリットツールキット



©Project Management Institute. All rights reserved.

- ◆ DAはすべてのアジャイルを包括して、「いつ何を使用するか」を明確にするものです
- ◆ DAは、組織におけるアジャイルをより成功へと導く、豊富で包括的かつ系統立てられた戦略を提供するツールキットです
- ◆ 選択できるオプションを知り、置かれたな状況において効果を現すソリューションを選ぶことが、より優れた意思決定につながります
- ◆ つまり、「PMBOKのアジャイル版」にイメージに近いものであり、どういう形になるかは明確になっていませんが、いずれPMBOKと融合していく方向性になると思われます。（この件に関しては私見です）

特徴が表れているディシプリンド・アジャイルのマインドセット



ディシプリンド・アジャイルとは、様々な異なる状況（コンテキスト）において、企業が「実用的な結果」を得ることを最大の目的としており、そのためには具体的な選択肢をどう選べばよいか示したツールキット



渡会 健

著作（共著）



雑誌掲載



- 財閥系宇宙関連ソフトベンダーにおいて機械設計からシステム開発を中心に活動後、7年目からはソフトウェアシステム開発（予測型開発）のPMとして活動。
- JAXAへの4年間出向経験もあり、受発注双方の立場でのPMで活動した。
- 16年間勤めあげた後、ステップアップでPM系コンサルファームに転職。
- その時にアジャイル開発に出会ってしまい、どうしても開発現場で実践してみたかったので中小規模の独立系ITベンダーに敢えて転職。
- 以降、2年間でアジャイル文化の無かった社内にアジャイル開発を導入し、2011年以降最初の3年で3億以上を売り上げ、その後もいろんなケースのアジャイル開発マネジメント経験を積み重ねる。
- その経験を元に、アジャイルコーチや導入コンサル、アジャイルやPMBOK系の研修講師もシステム開発のマネジメントの傍ら務めるようになる。
- これらの活動のご縁で2017年からは下記も継続して務めるようになった。
 - **PMI日本支部アジャイル研究会元代表（2018-20代表、21年より副代表）**
 - **IPAのITSS+（プラス）アジャイル領域のWGメンバー**
- アジャイルコーチやコンサル、研修講師の業務に本格的にシフトするため2018年からコンサル業界へ復帰。
- 2020年からは、アジャイルだけにこだわらない、よりマネジメントを軸に置いた活動をするためマネジメントソリューションズに転職。DX支援事業を進めながら、アジャイルコーチや研修講師も継続して実施中。



オンライン名刺



マネジメントを、世界を動かすエンジンに。

※ 本資料の一部、または全部の無断流用、再配布を禁じます